

居間における室内装備要因の室内雰囲気には及ぼす影響  
奈良女大家政 ○竹原広実 久保博子 磯田憲生 梁瀬度子

(目的) 室内視環境の居住性評価を取り上げ、感覚的に行われてきた室内視環境要素の室内雰囲気への影響を定量化し、心理的側面からの快適な室内設計を科学的な資料に基づいて行う手法を発展させることを目的として、本研究室では数々の研究が行われている。今回はその一貫として、居間における室内装備要因の室内雰囲気には及ぼす影響を、装備要因の組み合わせとそれらが作り出す色彩の構成の視覚的效果を中心に検討する。

(方法) 実験対象はソファ、カーテン、クッションといった装備要因とし、評価対象は実際の居間の写真にCRT画像処理を施し、実験対象に31種類の色彩を着色し、変化させて合計288種を作成した。それらをスライド撮影し、スクリーンに投影して被験者50名に観察させた。評価方法はSD法を用い、24の評価項目について評価させ、その空間の知覚的效果を把握した。

(結果) 居間の雰囲気評価に関して、4つの共通因子が析出された。第I因子を価値(Evaluation)、第II因子を活動性(Activity)、第III因子を暖かさ(Warmness)、第IV因子を豪華さ(Gorgeousness)と意味づけた。また、室の快適性には色相と装備要因の組み合わせが、室の快活性には明度が、室の暖かさには色相の影響が大きく、室の豪華さには色相と着色した面積の割合の影響が強く認められた。